



子どもは 家族の病気やケアを どう理解しているのか

ヤングケアラーの知る権利・参加する権利

家族の病気や障害について、子どもに説明することが難しい場合があります。しかし、子どもが家族の病気や障害を理解することは、病気や障害のある家族とのかかわり方を学ぶだけでなく、日常生活での適応や進路選択など、将来にかかわる意思決定にも影響をもたらします。「知る」ことは、子どもにとって、社会参加や自己決定の基盤となるのです。

本シンポジウムでは、家族人数の減少や少子高齢化、共働き化など、日本社会の構造の変化を踏まえて、子どもが家族の病気や障害について「知る」機会を持つことの意味を考え、ヤングケアラーの知る権利・参加する権利を保障するための支援のあり方を、多角的に検討します。

2026 **2/22** (日)
13:30~16:15 (開場:13:00)

会場

**成蹊大学
4号館ホール**

東京都武蔵野市吉祥寺北町3丁目3-1



定員

150 名 (定員になり次第締切)

お申し込み

<https://forms.gle/heXUXq55WwbQs8FB6>



プログラム

1. 趣旨説明
2. パネルディスカッション
パネリスト報告
ディスカッション
3. 質疑応答
4. 総評

参加料
無料

「連合 愛のカンパ」の助成を受けています

パネリスト

(50音順)

滝島 真優さん(成蹊大学研究員)

- ・社会福祉士として障害者就労支援、相談支援に従事
- ・双子の弟が知的障害を伴う自閉スペクトラム症である姉としての経験から、2008年に学齢期のきょうだい児を対象とした任意団体「きょうだい会SHAMS」(宇都宮市)を創設・運営
- ・現在は学齢期のきょうだい児支援に関する研究と社会福祉士養成に携わる

新家 一輝さん(名古屋大学医学部付属病院きょうだいの会)

- ・名古屋大学病院小児科病棟で看護師キャリアを開始
- ・重い病気や障害のある子どものきょうだい支援をする「NPO法人しぶたね」の活動に従事
- ・2010年に「名大病院きょうだいの会」を設立
- ・現在は名古屋大学大学院医学系研究科教授。小児がん等慢性疾患や医療的ケアのある子どものきょうだいとの看護を探究する

韭澤 博一さん(医療法人社団翠会 慈友クリニック医療相談部長)

- ・成増厚生病院アルコール専門治療病棟に入職
- ・2007年より年1~2回、入院患者の子どもたちを対象に「子どもプログラム」を実施。アルコール依存症の病気の理解、感情の表出と表現など、子どもの持つ回復力を生かすようにサポートをし、世代間連鎖の予防に努める
- ・2025年4月より現職。子ども支援も継続中

コメント

小林 鮎奈さん(こどもびあ副代表、ヤングケアラー協会)

- ・看護師、公認心理師として精神科病院に勤務。ダイアログやトラウマケアを学ぶ
- ・幼少期から母の統合失調症と向き合い、家族会に支えられた経験をもとに、精神疾患の親をもつ子どもの家族会「こどもびあ」で活動
- ・現在は自治体と連携しながらヤングケアラーコーディネーターを務め、子ども・若者の支援に取り組む